

認知症ってなあに？

● 認知症は誰でもかかる可能性のある身近な病気です

認知症とは、いったん正常に発達した知能・知性が、脳の働きの不具合により低下し、日常生活に支障をきたす状態です。

記憶力や判断力が衰え、周囲にうまく適応できなくなったり、幻覚や妄想などの症状がでることもあります。

● 認知症と加齢によるもの忘れの違い

加齢による物忘れ	認知症による物忘れ
・ 経験したことが部分的に思い出せない	・ 体験したこと 全体 を忘れている
・ 食べたものを忘れる	・ 食べたこと じたい を忘れる
・ 物の置き場所が思い出せないことがある	・ 置忘れや紛失が 頻繁 になる
・ 日にちや曜日を間違えることがある	・ 月や季節がわからない ことがある

● 認知症の原因となる脳のおもな病気

認知症の種類	特 徴	おもな症状や傾向
アルツハイマー型 認知症 がた にんちしょう	脳が萎縮して機能が全般的に低下していく、最も多い認知症	● ゆっくりと症状が進行する ● 初期には麻痺などの神経障がいはい少ない ● 機能低下が全般的に進む ● 人柄が変わることがある
血管性認知症 けっかんせい にんちしょう	脳梗塞や脳出血など脳血管疾患のために、脳の細胞の働きが失われる	● 再発のたびに段階的に進行する ● 片麻痺などの神経症状が起こりやすい ● 機能低下はまだらに起こる ● 人柄は変わりにくいが、怒りっぽくなる人もいる
レビー小体型 認知症 しょうたいがた にんちしょう	脳内に「レビー小体」という特殊な物質が蓄積されることで発症する	● なだらかに症状が進行する ● パーキンソン症状（動きが遅くなる、転びやすいなど）がみられる ● 機能低下は全般的に進む ● 虫や知らない人など、現実にはないものが見える
前頭側頭型認知症 ぜんとうそくとうがた にんちしょう	脳の一部である、前頭葉や側頭葉が萎縮して起こる	● 症状の進行は比較的早い ● 物の名前がわからなくなる・出てこない ● 同じ行動を繰り返す ● 自分の思うままに行動する ● 50～60歳代くらいの比較的若い世代で発症しやすい